

## 1、本園の教育目標

社会福祉法人あけぼの会の運営する諸施設は、児童福祉法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき、全ての子どもが等しく豊かな愛情を持って育てられる環境を提供し、子どもの人権や主体性を尊重した教育及び保育に積極的に取り組むものである。

それにあたっては、保護者や地域との連携はもとより、様々な体験活動を経験させる事の中で、一人ひとりの子どもの育ちを社会の宝として、生きる力の醸成を目的とする。

2、2017（平成 29）年度 法人重点項目を踏まえ、法人・各施設としてどのように取り組んだかの自己評価結果報告。

※ 太字は、2017（平成 29）年度 法人重点項目です。

### **A) 市内待機児童の解消を図るための環境整備に向け努力する**

結果>ほ一ふる広場（宇治市木幡赤塚 19 番地）に隣接していた茶畑（宇治市木幡赤塚 18 番地・525 m<sup>2</sup>）を買い取り、既存の人口芝スペースであるほ一ふる広場と一体化し人口芝グラウンドとし新たに「のぼり・はだしっこ広場」として拡充した。また、その「のぼり・はだしっこ広場」と隣接している桑原農園（宇治市木幡赤塚 33 番地の 1）の一部（746.49 m<sup>2</sup>）を畑として使用出来る契約を結び、野菜や果物などの栽培から収穫までを体験できる環境を整備した。共に、多くの園児や児童館児が目一杯遊べる環境の整備と共に、自然体験を通して自然に対する愛情や畏敬の念を持てるような環境の提供に繋げている。

### **B) 乳児・幼児・給食・一般生活習慣等の領域に合わせた専門性を育むための研究を行う**

結果>幼児は、専門性を活かした「担当制」（体操・和太鼓・マーチング・リトミック・あそび）に取り組んだ。良かった面は、和太鼓・マーチングについては、1 学期より運動会に向けて目標を持って活動できるところ。また担当の職員は、やりがいを持って取り組めると共に、担当外の職員や年齢との関わりがより大事になり、交流が深まる部分もあった。反省点は、日々のクラスの関わりと担当別の関わりを並行して行う事が困難であった。全ての年齢や活動を同時に行う為、職員間での混乱が生じ、総合的に調整しまとめる立場が不十分であった。今後は、その部分を整理し、カリキュラムの実施と、専門的な知識を持って教育できるように「5 歳児は全員でみる」という以前からのねらいを踏まえて取り組ん

で行きたい。乳児、給食については、日々の保育や給食をしっかりと行うという部分に時間が割かれ、まだ専門性を育むための研究を行うところまでは行けていない。

#### **C) 職員の給与アップを図る**

結果>平成 29 年度も定期昇給にプラスして、ベースアップも実施すると共に、処遇改善一時金として正規職員は 70,000 円以上、年度末にも一時金を支給することが出来た。また、処遇改善Ⅱとして正規職員・嘱託職員を中心に 5,000 円～40,000 円の処遇リーダー手当も支給する事ができている。

#### **D) キャリアパスによる職種別職員体制の編成**

結果>京都府保育協会が実施している「京都保育人材キャリアパス」に、職員の経験や役職、職種などに応じて対象となる研修を選んで参加している。キャリアパス導入から 1 年が経過し、各職員の研修参加状況の把握によって次年度以降の研修計画を作成する事ができた。今後も、職員自身がどのカテゴリーを勉強しているかを意識して、内容ごとに専門性が高まるようにしていき、研修内容を実践活用できるよう取り組んで行きたい。

#### **E) 2・3・4・5 歳児混合保育クラスを実施し、その効果を研究する**

結果>年末の時期に 2 歳児を含めた異年齢混合保育を例年通り実施したが、効果として 2 歳児の次年度への移行がスムーズになったのと、3 歳児も年中になる気持ちを持てるなど、効果はあると感じている。しかし、研究するまでは出来ていない。

#### **F) 幼稚園教諭免許状の更新や、子育て支援員及びキャリアパスと連動した研修等により職員の資質向上を図る**

結果>平成 29 年度も 1 名の職員が特例により幼稚園免許を取得、子育て支援員も 5 名が取得し、受講費用、交通費、休暇対応などの援助を実施し、職員の資質向上支援を行った。

#### **G) 企業主導型保育事業等の導入により、職員に対する子育て環境の整備を図り、働き続けられる職場環境の確立を図る**

結果>平成 29 年 9 月より企業主導型保育事業として「なごみのぼり」を開設する。0～2 歳児定員 12 名の施設で、9 月より職員の子どもを 2 名預かるところからスタートし、職員の早期復帰に繋げる事が出来ている。法人全体で平成 30 年度も 18 名の産休育休中及び産休予定職員がおり、復帰したい時期に復帰できる企業主導型保育事業は、安心できると好評である。今後も働き続けられる環境の整備に努めていきたい。

#### **H) 送迎バスの運行について、施設間連絡のみ実施していたが、幼児の自宅までの送迎バスの運行を図る**

結果>毎日、朝と夕方でそれぞれ約 20 名の送迎利用があり、喜んでもらえている。平成 30 年度も更に増える予定であり、利用希望者は増加傾向にある。

#### **D** ほーぷるハウス（宇治市木幡赤塚 19 番地）の利用促進を図る

結果>毎週、ほーぷるのかっぱ組が給食やおやつ、設定保育などで利用した。また、ほーぷるの流しそうめんや乳児組の水遊びなどでも活用した。学童クラブの子どもたち 200 人ほども、自分の生活環境に合わせて休憩したり遊んだりするスペースとして利用促進を図った。

以上